広報 肱川

人口と世帯

	昭和40年（6月末）	昭和45年（6月末）	昭和50年（6月末）
人口	2,850人	2,339人	2,078人
男	2,935人	2,363人	2,139人
女	5,785人	4,702人	4,217人
			（前月比6人増）
世帯数	1,272世帯	1,184世帯	1,102世帯

転入した人　10人
転出した人　7人

お知らせ

◎心配ごと相談日

主催　社会福祉協議会
○七月二十五日
宮本・長田相談員
○八月五日
楠野、下石相談員
○八月十五日
兵頭・堀尾相談員
○八月二十五日
森本、坂本相談員
○開設場所
肱川町公民館心配ごと相談室
○開設時間
午前九時～午後四時

およろこび三人

中居谷　崎野　美保ちゃん
中居谷　吉田　鈴香ちゃん
大和　岩本　三奈ちゃん
（六月中の届出）

妊婦健康相談八月十一日（九時～正午）肱川町公民館　乳児健康相談八月二十日（九時～正午）肱川町公民館

共同のものを大切に（「大切に」運動　八月の目標）

台所を圧迫する医療費
国民健康保険の実態

私たちの町では、国民健康保険の加入者が、人口の七三％を占めています。四十九年度の医療費総額は、一億二千五百万円に昇っています。さらに五〇年度では、一億五千万円に達する見込みです。町内のくりの生産額が、一億五千四百万円といいますから、栗代はそっくりお医者さんへ持って行ったことになります。いや、町内の社会保険加入者分を含めると一億七千万円をこえるでしょう。

今月は、町の国民健康保険の実態を通して、いま私たちの台所を最も圧迫している医療費について考えてみましょう。

国保のしくみ

みなさんが病院で診察や治療を受けたときは、医療費総額の三〇％を窓口で支払っています。

七〇％は、町から病院などへ支払っています。この財源は、医療費総額の二五％にあたる金額を保険税としてみなさんから徴収し、四五％の国からの交付金を合せて、これにあてているわけです。

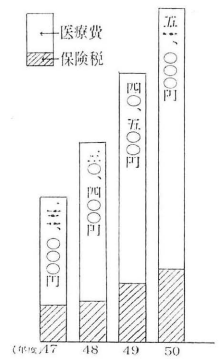
老人医療費や零才児医療費の支給というのは、おとしよりなどが窓口で支払われる金額を町が国や県の補助を受けて支払っていることです。老人の場合でも、七〇％にあたる金額は、やはり国保会計から支払っているわけです。

加入者数のうごき

最近、被保険者数は減少の傾向にあります。

四十七年には、三、四二〇人で人口に対し七七％を占めていましたが、五〇年四月には、三、〇六七人で人口の七三％になりました。

表1　1人当り医療費と保険税



医療費はうなぎのぼり

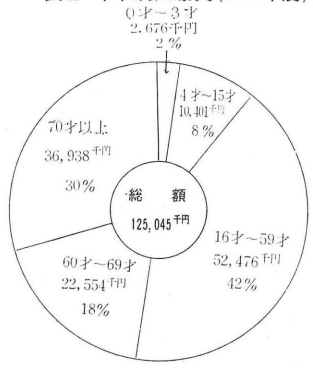
被保険者数が減少しているのに、医療費は年々増加しています。

四十七年度の医療費総額は、七千五百万円でしたが、四十八年度には九千九百万円となり、四十九年度には一億二千五百万円となりました。さらに五〇年度では一億五千万円になる見込みです。

一人当り医療費は

一人当り医療費で比較してみますと、四十七年度は二万二千円であったものが、四十八年度で三万四百円（三八・六％増）となり、四十九年度には四万五百円（三三・三％増）となりました。さらに五〇年度では五万千円（二五・九％増）になる見込みです。

表2　年令別医療費（S49年度）

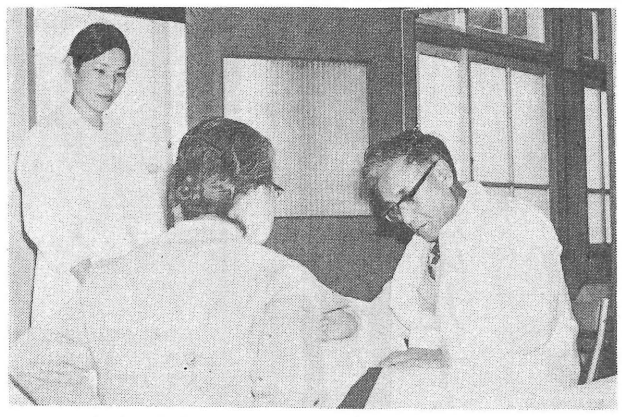


老人医療費が三〇パーセント

四十九年度の実績でみると肱川町国保加入者のうち、七〇才以上の人は、三五四人で、全体の一二％であり、県平均の九％より多くなっています。

また、医療費総額は三千七百万円で全体の三〇％を占めています。

医療費総額でも県平均の二八％を上回っています。



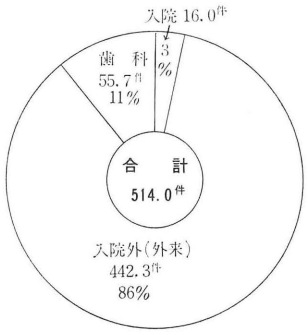
主治医をきめておくのが上手なかかりかたです

受診率は

一人が一か月間に、同一病院でかかった場合は、一回かかっても、三十日入院したときでも一件として計算すると、全体では一人年間平均五・一件であるのに対し、老人の場合は九・一件受診しています。

表3　受診率（S49年度）

100人当り受診件数である



1件当り医療費は

全体では、七六〇円合計で一件当りの医療費は、老人入院が四万五百円、入院外が二万五百円となっています。

老人の場合は、一件当りの医療費は、入院が四倍以上に、入院外が二倍に対し、全体では十三万円と、全体の三倍になっています。

どんな病気で医者にかかっているか

病類別にみると、件数では、呼吸器系の疾患が最も多く全体の二三％を占めています。次いで、消化器系の疾患が二〇％であり、循環器系の疾患、神経系の疾患の順となっています。

医療費では、循環器系の疾患が急増し、全体の三〇％を占めています。次いで消化器系の疾患が二一％、神経系の疾患の順であり、受診率の高い呼吸器系の疾患は、医療費では一〇％以下となっています。

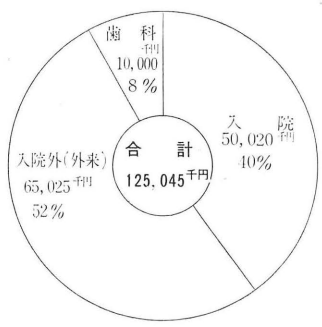
小児期に多い「呼吸器系の疾患（感冒など）」は、よく医者にかかり、費用はそれほどかかっていませんが、成人病検診などにより、「循環器系の疾患（高血圧など）」は、受診率、医療費ともに増加しており成人病に対する関心が深まってきたことを示しています。

病類別では、県全体と全く同じ傾向を示しています。

長い間に進んできた病気はすぐには治りません。よく転医される方が目につきます。転医すれば、それだけ医療費は高くつきます。

また、人間の肉体的機能は、四十才頃から退化してゆきます。成人病といわれる高血圧や心臓病は、初めのうちは全く自分で気がつきません。定期的に健康診断を受けて、早期発見、早期治療に心がけたいものです。

表4　医療費（S49年度）



子どもの作文集

出かせぎに行っている父

大和　横田栄子

父は、広島へ出かせぎに行って、住宅を作っています。そして二月に一度は家に帰ってきます。またこっちの様子やあっちの様子などは、電話で連絡をとっています。

父は、帰る日をきめていても、ときどき、その日より早く帰ったり、おそく帰ったりするので、びっくりする時があります。

父は、おこることもなく、とてもやさしい父だと思います。家族一家で買い物をするという楽しみもあります。父が、帰る時必ず、何かみやげがあるので楽しみです。それに父は、愛知県の高校に行っていたおにいさんが帰ってきたので、父もたいへんうれしかっただろうと思います。またおにいさんも、母や父に会えたので、うれしかっただろうと思います。やはり父が、広島へいくとさびしいです。私は、毎日毎日働いている父や母に感謝しています。

議員さん出番です

和気不二夫さん

○何期目ですか

三期目になるが、私のようなものがいつまでもやらんといけん状態ではいかんのじゃが。

○まず一言

選挙のたびに思うのは、若くて地域の信頼を集めておる人が多いことは良いことだと思う。

今度の選挙で六人の新議員さんが誕生したことは、町民がよい意味で選挙に対して関心をもつこと。金、集団、などの力に打ち勝つためには、実践する勇気を持つこと。どうせだめだとあきらめず、理想を高く持ってやりたい。それと山村と都会の差をなくしたいものだ。道路一つ作るにしても山村では地元の負担がかなりの負担がかかる。これは逆に補償金が入ることに矛盾しているとも思う。

○産業の面での意見を

私は、農業は自分でやっていないのでいわゆるビジネスだけの観光地が多い。だから裏を返せば、当町の自然と人情味豊かな人と人とのふれ合いを大切にしたい。そのようなものを生かせるような商業にすべきだと思う。そうすれば、こんな狭い地域だから、お互いに協力してやらなければ伸びないけれど、絶対に足を引っ張り合うようなことをしてはいけない。

○家族は何人

今は十二人家族で、私は一番前に、先祖代々の大きな墓がある。一緒に日本一の優勝旗を返還したい。

わが家の常会を（毎月五日は家庭の日）

情報室

町の行政組織が変りました

町の行政組織は昭和四十八年に現在のように改められましたが、更に住民の行政に対する要望を適切に処理し、能率的に事務を処理するため一部分担を組替えて次のように変りました。それぞれの責任の分担を明確にして適確に処理し、横の連絡を強化して仕事をスムースにすめて行こうとするものです。

①**総務課**　一般的な行政管理事務と税務を担当。

②**企画経済課**　町の主要な事業の企画、産業の振興、広報公聴、商工観光等を担当。

③**町民課**　窓口事務、戸籍、生活福祉、保健等住民の日常生活に直接関係の深い事務を担当。

④**建設課**　土木、建築等町の事業を実施する部門を担当。

⑤**国土調査課**　国土調査の事務を担当。

⑥**町民運動室**　町民運動の推進・コミュニティづくりの事務を担当。

なお職員の配置などは別に配布した庁内組織図を参照して下さい。（総務課）

人件法律相談

とき、八月十五日午前十時から午後三時まで。ところ、肱川町公民館。

不燃物収集

七月二十九日から不燃物を収集します。前日に従来の場所へ出して下さい。荷づくりは、運搬しやすくしっかりと。早くから出しているものが見受けられます。出している方は責任をもって、荷づくりをしかえて下さい。（町民課）

ヘルメットをかぶりましょう

道路交通法の改正で、自動二輪車の運転者はヘルメットをかぶることが義務づけられました。これは、二輪車の事故が多いことと、その事故で亡くなった人のほとんどが、頭のケガが原因であるので運転者の頭を防護するために義務づけられたものです。

(1)　＜改正内容＞最高速度四十キロ以上の道路では、原付き（五十cc以下）を除く全ての二輪車が違反対象となります。

(2)　違反した場合、反則点数一点となります。

(3)　後部座席の同乗者も無着用の場合、違反として運転者に反則点数一点が加算されます。（総務課）

鹿野川 夏まつりへのおさそい

鹿野川夏まつりを今年もまた八月七日に行います。今年は五年ぶりに花火大会を催します。ご家族でおそろいでお出かけ下さい。

行事名	開催日時	場所
ダム犠牲者慰霊	8月7日 9:00—10:00	ダム慰霊碑建立地
弁天宮祭典	10:00—11:00	上鹿野川弁天宮
七夕笹飾りコンクール	10:00—20:00	滝山，上下鹿野川部落有志
びっくり市	12:00—23:00	鹿野川中心街
楽団演奏 ① ②	15:30—16:00 19:20—20:00	鹿野川宇和島自動車駐車場
盆踊り大会	20:10—21:30	同上
花火大会	21:40—22:10	郷城（肱川中学校表川原）

川をきれいに（七月二十七日）

昨年より人や、物を大切にし、住みよい町をつくるため、「川をきれいにしよう」「大切に」運動を展開しております。七月二十七日に実施するよう計画いたしています。町をあげてご協力下さい。部落によっては河川のないところもありますので通学路や集会所、お宮やお寺などの清掃をしていただきますようお願いします。

自然環境を観察

8月から「大切に」本部

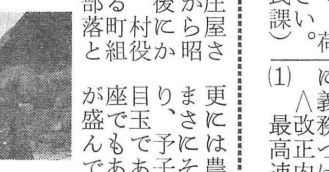
「大切に」運動推進本部では、町内地勢、源流、交通網、環境資源などを調査し、汚れなどを観察し、つぶさに今後の運動や施策の資料にしようと町全域の踏査を行うこととなりました。

踏査は、二班で編成、八月から毎月六部落程度を実施、三月に終る予定です。（町民運動室）

部落自慢ばなし

古武士の風格

町　横田　方之



藩制時代は、お庄屋さんのひざ元で明治から昭和の戦後にかけては、村役場のある町組で、町部落と名称は変って予子林の中心地であることに変りなく時代の流れで役場こそなくなったが、一〇〇年続いた小学校、郵便局あり更には農協、公民館と、まさにその名の示すとおり、予子林の町であり、予子林の銀目玉であり、予子林の座でもある。昔この地方が盛んで、朝に夕に粋な芸者はんの、姿を横目に見て三味線の音

そういった職業的からみて、部落の人々は、本来なら、世の中の事柄についても、多少博識であってもよい筈なのだが、現実は全くの逆で、武家の、やせ浪人といった風格であり、世事にうとく、現今のめまぐるしい世情には、とてもじゃないが対応できず、経済の変動にも取り残され、社会についていけるのは、老令化だけ、従って昔からの貧乏暮しは、今も一向に変りなく、馴れたというか。それでも日常の表情はみな明るく、酒の唄などよく笑う、また玄人はだしの珍芸奇芸の持ち主も多く、みんなでしんと底たのしんでいるがこれも悟りを開いたそれかもしれない。

義理人情に厚く、金銭が素朴な感情をもったたまおり、浪曲の文句にあるように、金もうなる人もなく、金の色を総てに自分の本位えでいる。

こはを垂れども、下自由をとかいなこと食気す風の雰囲てしまて武をじ士的衣住が、囲気もいだ大事なにおり、満足言のやなこ毎日て、更見捨てかの鼻

時代の流れで役場こそなくなったが、一〇〇年続いた小学校、郵便局ありの名称は変って予子林の中心地であることに変りなく、ずっと勤め人の町で、今でも、もと勤めて今は亡き人の家族や、老令でやめている人と、現在勤めている人と、ほとんどの家が勤族である。

勤め人が多く、それ以来ずっと勤め人の町で、今でも、もと勤めて今は亡き人の家族や、老令でやめている人と、現在勤めている人と、ほとんどの家が勤族である。

花いっぱいコンクールのしめ切りは七月三十一日です。

インタビュー

お宮の掃除は反省のとき

正山　谷本恒雄さん

「自分本位の考えが先行し，人間らしいつきあいが少ない。昔の良さを考え直す大切な時」と語る谷本さん

七年前、四十三年の七月、役場を退職して正山の一住民に戻った。

四十年に郷土を守ると言う熱意は一倍強い。今月は、人一倍強い。その考えの一端を紹介するため、正山のお宅でずっしりとした体躯、太い目と相対した。

あたかも七月は「郷土を美しくする月」であった。

（お宮の掃除を続けておられるとききました）

「役場をやめてから何かやろうと心に決め、神明神社の掃除を月二、三回の割でやっている。草ひき、落葉はき、床拭きをやっているが一回に半日はかかる。八月は学校の子ども達がやってくれるし、やっていると手伝ってくれることもあるが、とても嬉しい。最近は近所の人もやってもらうようになった。

（掃除は自分自身の反省と戒めにもなりとてもよい。）

「道や川がよごされること残念がってよく話されます。」

（近ごろ菓子類がナイロンやアルミ箱で包まれておりますが）

「今の人間環境をどう思いますか。」

「一言で言えば、人と人とのつながりが薄れていくようにも思う。物的な面の便利さが強くなってきたようにも思う。何の気なしに皆んな自分本位の考えが強くなってきたようにも思う。

（昔の行政と今の行政について）

「昔は国や県の指示によって独自の行政へと変ってきたようにも思う。

政策事務処理に終始した。最近は住民のこと、こころのつながりを考え直すことが大切なことだと